

## 第 37 回車いす SIG 講習会 in 那覇

学校法人戸早学園 北九州リハビリテーション学院  
作業療法学科 油田 あゆみ

### 1. はじめに

2013 年 1 月 12・13 日の 2 日間、沖縄産業支援センターにて第 37 回車いす SIG 講習会 in 那覇が開催されました(図 1)。私にとって車いす SIG に入会し初めての講習会でしたが、この車いす SIG に入会したきっかけは昨年、福岡で開催された第 27 回リハ工カンファレンスでした。全国各地で開催されているリハ工カンファレンスが私の地元福岡であると聞き初めて参加したのですが、支援機器による日常生活のサポートや、機器ユーザーに向けた各々の取組み、そして機器ユーザー自らの発表を見聞きするに連れて、一気に興味が高まり、開発者、製作者、エン

ドユーザーが対等な立場で意見交換し連携を図るといふ一つのチームを強く感じたものでもありました。ぜひ私も、この世界に携わりユーザーや他職種の方と共に喜び楽しみを分かち合いたいという思いが芽生え、この SIG に入会しました。

### 2. 講習会内容

今回のテーマは「車いすの基礎」ということで、1 日目は生活に活かされている車いすのいろいろから、基本的な構造、車いすに必要な不可欠なクッション、そしてそれらを使用するユーザーへの適合(身体寸法)について、2 日目は電動車いすの種類・活用から、1 日目の基礎から少し発展し車いす適合に関わるその他の因子や、シーティング理論の 1 つであるアクティブ・バランス・シーティング (ABS) の考え方についての構成で行われました。臨床を経て今は、教育の現場にいる私ですが、基本的な車いすの部位名称や車いす寸法と身体計測、車いすの種類や特徴をわかってはいたつもりではありましたが、それは表面的な知識に過ぎずその根柢までは理解していないまま対応していたように思います。車いすの移乗性、姿勢保持性、操作性等の特性はパーツの構成や寸法、構造で異なるため、その一つ一つの機能と構造との関係までを理解しておかなければ対象者の生活に適応できる車いすを処方することができないことに気づかされ、車いすに求められる移乗性、操作性、姿勢保持性、環境とのマッチングにはそれらの知識が必要不可欠であることを痛感した内容でありました。このような車いすの構造や各部位の材質の特性などなかなかリハビリでは学べない部分ではありますが、受講したことで今までの知識がつながりその面白さや、車いすの奥深さを知りますます知識を深めたいという気持ちが湧いてきました。



図 1 講習会会場の沖縄産業支援センター  
(写真：産業支援センター HP より)

北九州リハビリテーション学院  
〒 800-0343 福岡県京都郡苅田町上片島 1575

お昼のランチョン車いすの紹介では、各車いすメーカーの方から実演を含め最新の情報を提供され、また研修期間2日間にわたる展示会では紹介された車いすやその他にも講義資料の中で掲載されていた車いすや関連商品などを展示されていました。なかなか説明だけではイメージしにくいものでも、すぐに手に取り体感できることで講義の内容も理解しやすいような配慮がなされていたように思います。

1日目の講習会後には交流会がありました。まずは車いすの歴史の紹介から始まりとても熱くそして長く語ってくださりました。その後はくじ引きによるグループ編成とそのグループごとの交流会。面識もなく初めて参加する私にとっては退屈な時間と思いきや、話も尽きることなくあっという間に過ぎた2時間でした。常に受講生や講師陣の方と交流できるように企画して下さった交流会は様々な方と情報交換できる有意義な場となりました。

このような内容で実施された2日間でしたが、常に講習会場に講師陣やスタッフの方がいてくださり気

軽に質問できるような雰囲気や、時間厳守したプログラムの進行、受講者の疑問や質問などへの個別の対応などスタッフの受講生に対する細かな配慮がとても感じられた講習会でもありました。

### 3. おわりに

機器は常に変化しています。そしてユーザーの生活様式や要望も変化しています。そんな中、日常生活場面を想定し治療・訓練を行い、その後の家庭生活や社会生活への適応を図ることを行うOTは、対象者の生活状況をいち早く把握できる立場にあり、対象者のニーズやその声を開発者や製作者に伝えていく重要な役割を担っていることを改めて認識しました。これらの職種との連携なくしては「ユーザーの求める車いす」を提供することはできません。車いすの知識を養うことはもとより、関連職種の方との交流を図ることはチームアプローチを行うために必要なことです。このような貴重な機会を与えてもらい得たつながりを今後に生かしたいと考えます。